

「付加価値の高い仕事へ」



日本電気硝子株式会社 取締役会長

森 哲次

われわれガラス産業を取り巻く環境は、これまでに増して急速に変化しています。あまりに変化のスピードが速く、追いかけるのに必死の状況です。

特に当社が携わっている映像ディスプレイ分野においては、CRT から液晶、PDP への転化が急速に進み、当社も大きな事業構造転換を余儀なくされました。チャールズ・ダーウィンが言ったように、「力の強いものが生き残るのではなく、変化に適応し、己を変えられることができるものが生き残る」ということを身をもって経験しました。さらに最近では照明の分野でも、LED、有機・無機 EL など新しい芽が出てきて、白熱電球から蛍光灯への時以来の大きな変化を予感させます。

このように急速に事業環境が変化していく中で、われわれガラス業界は今後どのように取り組んでいけばよいのでしょうか。私は、これまでのようにただガラスを作って売っていけばよいというのではなく、仕事の付加価値を高め、時代の変化にあった製品を市場に提供していくことが必要なのではないかと思えます。平たく言えば、農家が野菜を売るだけではダメ、漬物屋に転進して付加価値の高い仕事へということです。当社では、PDP 用基板ガラスに薄膜コーティングを施したり、光部品用球面レンズに金属キャップを付けたりしたものを売っています。今後はこれらのようなガラス以外の分野にも力を入れていきたいと思っています。また、ディスプレイのような需要の変動が大きい製品に頼り切ってしまうのもリスクが高いため、その他の製品でしっかり利益確保していくことも重要であると考えています。

付加価値の高い仕事へという点では、ニューガラスフォーラムの研究活動は、特筆されるべきものです。昨年まで行われていたナノガラスプロジェクトや、これを発展させた形で現在研究が進められている三次元光デバイス高効率製造技術は正に未来の変化を先取りしたものだと言えます。

これらに限らず、ニューガラスフォーラムの活動分野は、今後ますます広がっていくこ

とでしょう。ニューガラスフォーラムには、ガラスの分野に留まることなく、他の分野とをつなぐ接点になっていただきたいと思います。そうなれば、われわれガラス産業にも更なる可能性が開けてくるでしょうし、ニューガラスフォーラムの存在意義もますます高まっていくでしょう。また、新しいガラスの研究拠点としての役割を引き続き担われることにも期待しています。